〈 東北・新潟の活性化応援プログラム 〉
2018年 助成団体活動成果レポート

助成団体

特定非営利活動法人 **最上川リバーツーリズムネットワーク**

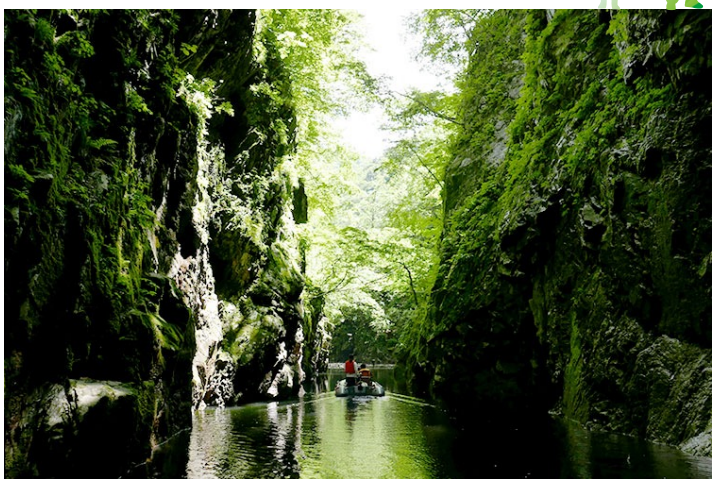
山形県長井市

プロジェクト名

絶景・三淵渓谷通り抜け参拝

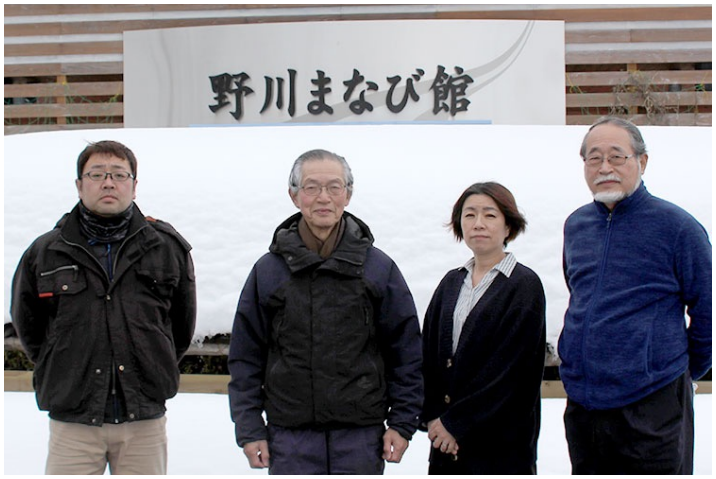
■地域の紹介

長井市は、山形県の南部に位置する「水と緑と花のまち」で、春から夏にかけてサクラ、ツツジ、アヤメが見頃となります。かつては最上川舟運の港町として栄えました。また、付近が養蚕地帯であったことから、伝統的な産品として長井紬が有名です。



■地域の課題

2011年に竣工した長井ダムの一角には、三淵(みふち)渓谷と呼ばれる断崖絶壁が織りなす美しい景勝地が存在します。1,000年前の「前九年の役」にまつわる「卯の花姫伝説」が今も息づいており、長井市の伝統芸能「黒獅子舞」のルーツとなった場所でもありますが、現在、付近には道路や登山道は整備されていないため、三淵渓谷に立ち入るためには、ダム湖からボート等で溯上するしか方法がありません。この価値ある地域資源を生かし観光の活性化を図ることが課題です。



■当団体の紹介

「ながい百秋湖」の景観美と置賜野川の秘境「三淵渓谷」をプロフェッショナルボートで体感するツアーを実施することにより、参加者の水源地域保全に対する意識啓発に繋げるとともに、長井市全体に及ぶ観光振興を目指します。

プロジェクトの概要

■背景・目的は？

当法人では、地域活性化を図るため2012年度から長井ダム湖「ながい百秋湖」を活用した事業を試行錯誤しながら進めてきました。

2012年から2014年にかけて、27名乗りの屋形船をチャーターし、ダム管理当局や運輸局に申請のうえ、実施しましたが、制約が多く年間で3日間しか運航できない状況が続きました。

また、船体の大きさから幅が狭い渓谷の中には入ることができず手前までしか案内できないこともあり、美しい渓谷への立ち入りを望む声が多く寄せられました。

そこで、2014年8月からレスキュー用ゴムボートに切り替えて運航した結果、渓谷の中への案内が可能になり、全国でも希少な絶景が話題を呼び、年々参加者数を伸ばしています。また、山形県の景勝地として徐々に認知されるようになり、地域住民の誇りになりつつあります。

高まるニーズに対し、運航日数の増加、乗降しやすい桟橋の設置、背もたれ付きの椅子やガイドスピーカー、無線装備の整備等、年々改良を加え安全で安心な船旅の提供に尽力してきました。

さらに2018年度には、1艘あたりの乗客数を増やすため定員8名乗り（以前までは定員6名を使用）のボートを新たに2艘就航させました。

しかし、主たる運営スタッフは地域おこし協力隊を含めて4人（本制度への申請当時）で行っており、限られた人員から常時2艘の出航が限度でした。

近頃は、県の観光ポスターへの起用や旅行会社から本プロジェクトに対する問い合わせもあり、新たな地域の観光資源となる可能性を秘めたプロジェクトです。新しいボートの就航は、将来的な団体客の受け入れを見据えたものでもあり、持続可能な観光地の確立に向けて、受入態勢の基盤づくりが求められています。

そのため、本プロジェクトでは、レスキュー用ゴムボートによる運航を実施することで、地域活性化及び観光地としての確立を図るとともに、ダム建設の経緯や水力発電の説明等もガイドスピーカーで流し、環境学習への理解も深めてもらえるように取り組みました。

■具体的な活動は？

長井ダムは、堤高125.5mを誇る大規模なダムであり、市街地からわずか9kmの距離に位置します。長井ダムのダム湖である「ながい百秋湖」は、豊かな自然環境にあり四季折々に美しい景観を楽しむことができ、上流には秘境と呼ばれる「三淵渓谷」が存在します。本渓谷は、川幅が3～4mと狭く、高さ50mの断崖絶壁が両岸250m以上も続きます。

本プロジェクトでは、レスキュー用ゴムボートを活用し、ながい百秋湖の豊かな自然環境とその奥に位置する三淵渓谷を約1時間かけて巡る運航を実施しました。

2019年度からは、運航体制を整え1度に4艘の出航を可能にしたことで、これまでの1日あたりの定員56名を96名へと大幅に拡大し、5月のゴールデンウィーク期間は大変な盛況ぶりでした。結果として、年間参加者数は前年度の2,469名を上回る3,644名に達しました。そのうち県内参加者は2,269名、県外・海外参加者は1,375名でした。

また、台湾や香港といった海外からの参加者も若干数増え、今後のインバウンドにも期待が持てます。現時点で地元長井の参加者は全体の10％にすぎませんが、それでも昨年を上回っています。参加者には、乗船後アンケートにご協力いただき、頂戴した意見をもとに常時改善に努めています。

実施場所：ながい百秋湖
運航期間：2019年4月27日（土）～2019年11月10日（日）の期間中76日間
乗船人数：3,644名

▼参加者の声（アンケートより抜粋）

- 神秘的な景観、歴史的な成り立ち、ダムをめぐる人々の営みをガイドさんが自然に語ってくれたことに満足しました。（東京都40代男性）
- きれいでした。神秘的で心が洗われました。もっと宣伝してたくさんの人に利用してもらってください。（東京都30代女性）
- 一時間があっという間に感じられる楽しいツーリングでした。特にメインの三淵渓谷は想像以上で大満足でした。もっと宣伝し知名度を上げるといいと思います。（宮城県40代女性）
- 季節の移り変わりに感動！今後は、国、役所、関係者へのアピールを広げてほしいです。（神奈川県70代男性）
- 渓谷の岸壁に湖が反射して映り幻想的でした。まるで自然のプロジェクションマッピングのようで、知人にその感想を伝えたところ今度乗ってみるとの声をみんなから聞くことができました。（山形県20代女性）
- 初めて乗船し、好評の理由が分かりました。静寂さ、景色の美しさ水面の美しさ、三淵の神秘性、ツアーの材料はそろっていることがわかりました。（山形県40代男性）
- 長井ダムに関しての説明などもあって理解を深められたし、青空と緑、景色も最高でした。（山形県50代女性）
- 自然豊かで大満足でした。すごく細い場所を抜ける時の大迫力は他には無いです。年間パスポートを作ってください。（山形県30代女性）
- 景色がすばらしかったです。心洗われました。エンジンを切った時の静けさは感動的でした。違う季節にまた来たいです。（千葉県50代女性）
- やわらかな緑と神秘的な風景に感動！また紅葉の時に来たいと思います。案内もしつこくなく良かったです。（埼玉県60代女性）
- 特に渓谷がとってもきれいでした。また、要所要所で説明があり楽しめました。レインコート、防寒グッズの貸し出しのお陰で、良い環境で楽しめました。（東京都20代女性）

乗船前にまずは受付タイム

安全のため救命胴衣を着用

いよいよ乗船！

子どもたちもドキドキワクワク

■活動の成果は？

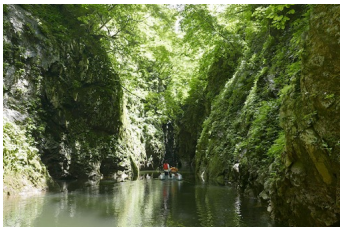
「絶景・三淵渓谷通り抜け参拝」は、山形県の新たな観光資源として徐々に注目されるようになり、本プロジェクト開始から7年目を迎えた2019年度現在は、観光基盤の確立に向けた佳境の段階にあります。

山形県をはじめとする各行政機関やJR等の観光ポスターへの起用実績も相まって全国各地から来訪者がお越しになります。参加者の4割は県外から訪れており、市外参加者も含めると9割を占めます。旅行者は、長井市や近隣（赤湯温泉や蔵王温泉等）の宿泊施設を利用することも多く、県内の方でも市内の飲食店を訪れる姿が目立ちます。実際に本プロジェクトに参加された方からスタッフが、おすすめの飲食店や場所等を尋ねられることも多く、長井市における観光への関心の高さがうかがえます。また、遠方からの参加者は公共交通機関を利用しているため、地元の鉄道及びタクシー会社へ経済効果をもたらしています。

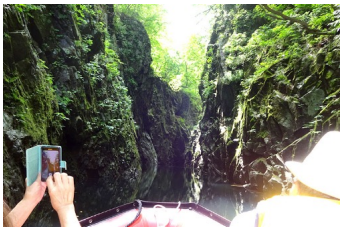
本プロジェクトの実施により、観光目的地として新たな選択肢を提供できたこと、さらに飲食店や宿泊施設、交通機関への経済的な波及効果が見られることから、地域経済の活性化に貢献することができたと考えています。

安心安全な運航を実施するため、適宜機材の修繕や買い替えを行っていますが、年間で見ると金額は決して安いものではありません。長井ダムは、ガソリンエンジンの使用が禁止されていることからボートは24ボルトの電動船外機を使用し、充電を繰り返しながら運航をしています。しかも1回の充電で2往復しかもたず、4艘のボートを1日4便運航すると16個のバッテリーが必要になります。バッテリーは消耗品であり、連日運航する場合は多数のバッテリーが必要になります。今回の助成金を活用して、バッテリー8個をはじめ船外機のスクリュー、無線アンテナに関わる機材などに充当して設備面の充実を図ることができました。

説明をよ～く聞いて！いざ出発！


川幅が狭くなってきた

いよいよ三淵渓谷が見えてきた


神秘的な景観が目の前に

団体からのコメント

本プロジェクトは、今後も発展が見込まれることから4艘のボートによる運航体制は必要不可欠だと考えています。常時4艘の運航体制を整えたことで、親戚や友人家族、同窓会などのグループによる参加も目立つようになり、マイクロバスで訪れる来訪者の姿も見られるようになりました。今後は、旅行会社との連携や人数の多い団体参加者を受け入れることを見据え、環境整備の拡充を検討していきます。また、ボート乗場までの公共交通機関がないため、シーズン終了後（2019年12月）に、新たに10人乗りワゴン車を購入しました。その結果、長井駅や野川まなび館からの無料送迎が可能となります。

懸念されるのは、限られた人員であることからスタッフに何かあった場合に対応が難しく、本プロジェクトへ支障をきたす恐れがあることです。さらに運行管理者は、現在代表理事の1名であり、次期後継者を見据えた人員の育成も必要と考えています。現時点では代わりの運転手や追加の人件費が確保できない状態であり、当団体の財政安定化を図りながら解決を目指します。

今後は「絶景・三淵渓谷通り抜け参拝」を主力事業として、限られた人員で運営できるよう活動内容を見直し、更なる発展を目指していきます。「絶景・三淵渓谷通り抜け参拝」は、年々参加者が増えていることから、数字を維持もしくはそれ以上を目指しながら安心安全な運航に努めていきます。

より、そう、ちから。
東北電力

© Tohoku-Electric Power Co.,Inc. All Rights Reserved.